
結界師【虫】

口ア

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

結界師 【虫】

【Nコード】

N 8 7 5 8 P

【作者名】

ロア

【あらすじ】

烏森、不思議な力を宿す地に、異形の存在、妖怪が力を求めてやってくる。烏森を管理し守護する者たち、結界師がそれを阻止するために結界術を駆使して妖怪を退治する。400年間ずっと……。その地に現れた、妖怪と似て異なる存在。人々はソレを恐怖と嫌悪と畏怖を抱いてこう呼ぶ、虫憑きと……。結界師とムシウタ、決して交わるはずのない物語が今一つになろうとしている……！

00・結界師と・・・

「方囲！」

そこは学校だった。少年の声、学校の生徒だろう。朝早く起きて、登校して先生の授業を

受けて勉強する。休み時間に友達と遊んだり、話をしながら貴重な時間を過し、放課後は

部活に勤しんだり、友達とどこかに遊びにいたり、そのまま家に帰る者がいる。しかし

、その少年はどれにも当てはまらなかった。それも当然だ、今は夜だ、もうすぐ夜中の1

2時になるところ。学校は夜の暗闇に包まれて、とても静かだ。だがハッキリと少年の声

がした。

「定礎！」

その少年の姿は学生服ではなかった。両胸のあたりに四角い紋が白くついた黒い着物。

それが少年の姿だった。背に黄色い鞆を背負い込み、丸い輪に刃がついた長い棒を持つ

ていた。

少年はソレに右手で狙いを定めた。小さな魚に見える。しかしそれは魚ではない。ふわ

ふわと宙に浮かぶ魚など普通はいない。それは妖怪。

右手を上げる。

「結!!」

その妖怪の周りに四角いガラスケースのような物が出現した。ソレは結界。少年の右手

が、再び結界に囲まれた妖怪に向けられる。そして……。

「よっしゃかかつ……お？」

こけた。

「うわああああああああアアアーーーーー……!!」

そしてゴロゴロと転がり木にぶつかった。体が逆さまの状態で少年、結界師・墨村家2

2代目、墨村良守は思い返す。こけた原因の結界について。

「注意力が足りないねえ」

良守より少し年上の少女が呟いた。少女は良守と同じ格好だ。しかし少し異なる点が

ある。着物の色は白く、同じ輪に刃がついた棒を持っている、刃の形状は異なるが、

大雑把に格好だけは同じだ。

「おい。コラ・・・」

良守の顔は引きつっていた。怒りを込めて少女の名前を呼ぶ。

「何すんだ時音!!」

「だって足元がお留守なんですもの!」

結界師・雪村家22代目、雪村時音。それが少女の名前だ。

「ナイスローリング、ヨッシー!!」

時音のそばに犬がいた。雪村家付き妖犬、名を白尾。時音は呆れた顔で良守の造つ

た結界に目をやる。

「あんたは戦い方になってないよ。何なの、このバカでかい結界は?」

「驚け、修行の成果だ!」

「バカ」

結界の中の妖怪を指差す。

「相手はこれだよ。こんな所でこんなに力使ってどーすんの」

妖怪は片手で掴めるぐらいの大きさ、比べて妖怪を囲んだ結界は大きい過ぎる。

「次にどんな大きなのが来るか、分かったもんじゃないでしょ」

「うるせえ！そんな時やそんな時だ！」

風がふく。良守の前髪が少しなびく。そんな中、真剣な顔で言う。

「どんな時だって、どんな相手だって、俺が必ずどうにかしてやるよ」

「まーたテキトーなこと言ってる。行こ白尾」

「おうよハニー」

「おい！」

時音は白尾をつれて良守のもとから去っていく。暗闇の中、良守はハッキリと見えた。過

去に自分せいでついた傷跡が、時音の右腕に。

自分の弱さが招いた傷。良守は誰かが傷ついたり、自分だけが泣いたりするのが許せな

かった。だから思う。

「滅！」

強くなると！！

暗闇のはずなのに、サングラスにハッキリと映っていた。墨村良守が。屋上に一人の女性

が立っていた。すさまじく特徴的な女性だ。深紅のコートを着て、腰を通り越すほど長い

髪、そして怪しく光る丸いサングラス。

「ふ・ふ・ふ・ふ・ふ・ふ」

女性は怪しく笑う。口がいびつに歪んでいる。風がふく、異常に長い髪が不気味な表情の

顔を、さらに不気味にするように隠すようになびく。

まん丸いサングラスをかけた女性が、手をまっすぐに差し出していた。その指先に、一匹

の鮮やかな模様を纏った蝶がとまる。

「
ねえ、貴方の夢をきかせて？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8758p/>

結界師 【虫】

2011年1月9日01時23分発行